

全国高校野球選手権
静岡大会

史上初!!ベスト4進出!



磐田南の底力

同窓会長 高15回 伊藤 英明



見中・磐田南高等学校 同窓会だより

第37号

発行日 平成27年10月10日
発行者 見中・磐田南高等学校同窓会
発行責任者: 伊藤 英明
印刷 株式会社 大進堂
同窓会ホームページ
<http://bannan-dousoukai.com>



本年は例年になく猛暑の夏を迎えました。この時節の中、母校のビッグニュースは何と言っても、野球部が全国高等学校野球選手権静岡県大会において、並みいる強豪を打ち破り、ベスト4まで勝ち上がったことでもあります。このことは、創部以来の快挙であり、在校生、同窓生はもとより多くの磐田市民までが勝利の感激に浸ることができました。躍動する選手たちの白球に挑んでいく姿は眞実剛健・文武両道そのもので、磐田の底力に深い感銘を覚えた次第です。まさに、『磐田ここに在り』の感でありました。開学からの伝統の上に新たな歴史を加えてくれた選手、学校、関係者の皆様から感謝と敬意を申し上げる次第です。

部活動・進路等に波及することを心から祈念するところです。さて、今年は、戦後70年という節目の年であり、戦時下に見付中学に在学していた先輩諸兄は、当時のことについて、回想録第2号にその玉稿をお寄せいただきましたが、戦中、戦後の中等教育の変遷を含め、苦難の歴史そのものであったと伺い知るところです。ここに、改めて、未来永劫に亘り、平和であることを祈念せずにはいられない思いであります。

この平和な時代に磐田南高校が世界に目を開き、大きく飛躍する機会となっている事業があります。それは、カリフォルニア州にあるマウンテンビュー高校(以下MV高校と表記)との訪問交流です。

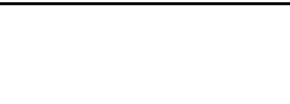
本年の3月、南高生徒25人を引率してMV高校を訪問しました。高校での授業体験は一週間でありますが、磐田南生徒のために特別なカリキュラムを編成し対応してくれました。また、歓迎行事も市と一体化した取り組みがなされ、『磐田ウィーク』そのものでした。このことは、四半世紀を迎える長い交流の歴史が、両校の強固な信頼と深い友情を築きあげてきた証であると実感した次第です。



マウンテンビュー高校訪問 (3/19~3/29)

生徒はホームステイ先での生活や学校での授業等を通して、異文化を直接体験することにより、日米間の文化の違いを知ると共に、自らの立ち位置や将来の自分を真剣に考える機会になったといえます。この異国の地における生徒の立ち振る舞いは、決して臆することなく、常に堂々としており、グローバル化が進展する国際舞台でも十分に活躍できる人材であることが分かりました。

来年は提携25周年という節目の年を迎えます。この交流事業が磐田南の新たな伝統の一つとして確立するよう訪問交流の更なる充実と発展を期待するところです。結びに、同窓生の皆様のご健勝とご活躍並びに母校の栄光をお祈り申し上げます。



特別寄稿

磐田南野球部の新たな歴史の幕開け!!

磐田南野球部OB会長 高41回 小林 俊幸

今年の夏の県大会において、野球部は創部史上初めて県3位(ベスト4進出)という好成績を収めることが出来ました。大会中は多くの同窓生に応援いただき心から感謝申し上げます。この夏の「磐田旋風」が新たな歴史の幕開けだと私は確信しています。私がOB会長に就任し今年で4年目ですが、就任当初から「磐田南野球部甲子園出場プロジェクト」を掲げています。創立100周年までには「有言実行」です。思いを公言すべきであると考えています。今年4月開催の同窓会磐田支部総会で「野球部は甲子園を真剣に狙っている」事をみなさんに伝えました。公言することで夢は近づくと考えています。これまでの野球部歴史上振り返ってみれば不可能ではないですし、今年の夏の大会でその兆しを感じました。この夏の「磐田旋風」は決して偶然起こった

ことではないのです。私は「100周年までに磐田南野球部は3回甲子園に行く」と考えています。まずは県大会上位常連校(常時ベスト8以内)となることが最低条件で、県優勝を狙う過程で「21世紀枠」で春の選抜甲子園大会に初出場(1回目)。100周年を迎える年の春の選抜甲子園大会に東海地区代表として出場(2回目)。そして100周年の夏の県大会で初優勝して、夏の甲子園に初出場(3回目)というシナリオです。このシナリオ通りにいけば、100周年までに甲子園に3回行けるのです。決して不可能ではありません。

強いだけでなく、地域の人達に愛され、魅力のあるチーム作りを監督、選手、父母、OBが一体となって進めています。甲子園のアルプススタンドでみなさんと共に校歌を歌う日を夢見て頑張っていますので、ご支援のほどよろしくお願致します。

第89回 同窓会総会開催!!



8月16日、磐田グランドホテルにおいて、歴代同窓会長・同窓会役員・各支部長・各年次評議員・PTA会長・後援会長を始め、多くの同窓会員の皆様出席のもと、盛大に開催されました。

総会では、開会の言葉の後全員で校歌を斉唱。審議事項として、会務報告、決算報告、平成27年度会務計画・予算案が提案され、いずれも承認されました。

懇親会においては、卒業70年、60年、50年の方々それぞれ記念の金・銀・銅メダルが贈呈されました。当番年次の皆様による工夫されたアトラクションの中では、大いに盛り上がり、世代を超えた絆を深めました。



～つながりは 世代を超えて～

総会・懇親会を終えて



総会実行委員長 高46回 今場里夏

年次当番を担当する中で、母校での3年間で学んだ母校の伝統・建学の精神、先生方から受けた教養と愛情に溢れた教育、仲間たちとの友情、地域から受けた恩などが、全て今の自分を支える核となっていることに気づき、深い感謝の念を抱きました。

8月16日、関係者の皆様のご支援・ご厚情を賜りまして、第89回同窓会総会・懇親会が無事開催されましたことに、担当年次といまして心より御礼申し上げます。

会の前後には、45回生の先輩方の思いを引き継ぎ、尾崎楠馬先生の墓前を訪れて御礼のご報告をさせていただきます。



今回の縁が、母校と同窓会に更なる発展と喜びを運んでくれることを願っております。

受賞者 喜びの談

金 卒業70周年(中19回) 挨拶は倉島秀行さん



戦禍のなかの青春

何の因果か、今日は、母校見中・磐田南高校89回同窓会に招待され、金メダルを授与される喜びの日です。

8月15日は終戦70周年を迎え、毎日の報道は我々の中学校時代の思い出ばかり。1926年12月25日大正天皇崩御、昭和に改元されました。昭和、平成の子供達が生まれ、育った時代も文明開化の時代の流れの

中で、既に平成も27年を経過し88年の米寿の喜びの最中です。ご来賓の皆様の前で同窓会長様よりひとり一人の首に掛けられた金色の桜花に見中、いまひとつははぐまの葉に高の字の南高の校章のメダル。ありがとうございます。

「戦禍のなかの青春」は見付中学校第19回生記念誌として、卒業50周年記念事業として、佐藤清司君が鈴木直之君等の同窓会役員に呼び掛け、「我々戦中の生徒は卒業証書もアルバム写真の一枚も無い。これよいか。」の一言が各職場を定年退職者に伝わって作られたものです。

【他の金賞受賞者のコメント】

佐藤清司さん 高齢化時代 百歳の大先輩に「純金賞」を贈ろう。中津川宗全さん 老人介護施設は良い所だ。体操、勉強、お喋り他。

鈴木常弘さん 「70周年・米寿」二重の喜びの年に、祝って頂き感謝。

杉山均治さん 朝のラジオ体操参加、ウォーキングによる健康管理。67年間の会社勤務に対する感謝。

高田清吉さん 過分な栄誉、諸先輩のご指導に厚く御礼申し上げます。

高塚文雄さん シベリア抑留を経て70年。金賞受賞に感慨無量。

和田太平さん 金賞・米寿と祝いが重なり



金賞受賞者

銀 卒業60周年(高8回) 挨拶は澤井佳子さん 挨拶は鮫島義隆さん



澤井佳子さん

この度、銀賞受賞の記念にと同窓有志の方々に推して頂いた私の陶彫作品「吟唱」を、大勢の方々で作ってくださった立派な彫刻台と共に母校に寄贈出来ました事はこの上ない喜びです。銀賞受賞と共に感謝申し上げます。



鮫島義隆さん

昭和29年夏、陸上部がインターハイで全国優勝したのに校歌・応援歌がありませんでした。そこで8回生が3年の昭和30年、生徒会で校歌・応援歌を制定することに、校歌作成委員



銀賞受賞者

私鮫島が委員長を拜命し、委員会で各種検討の結果見中の校歌復活がよいとの結論になりましたが、戦前教育と男子校で共学の現在に相応しくない字句の修正が必要で、私の3ヶ所の修正案を木原校長と長時間協議の上現在の歌詞となり、見付にお住まいの原作者伊藤先生のご了解を頂き制定しました。しかし楽譜が見つからず、生物担当の黒沢先生が先輩の歌から書き起した楽譜で制定しました。

ついでに、私の作詞、音楽の川口先生の作曲で応援歌も制定しました。

代のはしり、卒業生も361名と高校入学時もそれまでの4割増と、日本の社会にもあらゆる面で影響を与えてきた世代です。日本の発展にも大いに貢献してきたと自負しております。一同、これまでの経験と社会に還元し、後世にも負担をかけるまいよう社会貢献をしてゆく覚悟しております。



安間英雄さん

南高50周年銅賞授与有難うございました。一つの節目として、改めて学年同窓会も行うことができ、懐かしい顔、覚えのある顔、全然覚えのない顔と50年の歳月を感じました。我々はいわゆる団塊世



銅賞受賞者

慰霊祭のご報告

慰霊祭実行委員長 高37回 小沼裕樹



8月16日午前10時より、はぐま会館におきまして、平成27年度慰霊祭を執り行わせていただきました。この一年間の同窓生物故者数は、111名。高校37回生の早世された4名の御霊と共に、平安をお祈りさせていただきました。ご臨席賜りました同窓会役員、学校関係者、高校37回生物故者のご遺族の皆様、そして協力してくださった第37回生の仲間たち、本当にありがとうございました。

同級生の御霊に捧げた慰霊の詞では、若くしてこの世を去った友への思いが語られ、友の無念さを強く感じられたのと同時に、改めて今を生きる自分たちの果たすべき役割や責任の重さを実感しました。

今回、伝統ある慰霊祭の一翼を担うことができたこと、また、夢を語り合った学舎で、故人を偲ぶ機会をいただけたことに、心より感謝申し上げます。

以上、慰霊祭のご報告とさせていただきます。



支部報告

掛川・菊川支部長



高14回 橋本 洋子

礼に始まり礼に終わる

当支部は、平成24年1月設立。大庭勝良(高7回)初代支部長の熱い母校愛を基に発足しました。

今年の第4回支部総会にて、新役員体制の下、設立の原エネルギーである「運動場に礼をして練習を始め、礼をして終わる」という陸上部の見中魂(實美剛健、文武両道)を引き継ぎました。続いて、高30回富田寿人静岡理工科大学教授



第4回掛川・菊川支部総会 H27.1.11

が「ウォーキングで健康に」と題して講演。身近な内容に皆、聴き入り、母校への感謝や近況を語り合いました。

発足以来、伊藤菊造先生監督指導により陸上部全盛時代を築き上げた、同窓生の力量を地域や母校に恩返ししようと、活動してきま

豊田支部長



高20回 芥川 知孝

同窓生の絆

支部活動の中心となる総会は、毎年同窓生としての思いを共有化する場でもあります。今年も校長先生から在校生の皆さんの活躍、同窓会長さんからの活動を、また、政界で活躍されている同窓生からは最近の動きについてお伺いしました。

総会後の懇親会は世代を超えた交流の場です。学生時代の思い出などが弾む楽しいひと時です。予定時間をオーバーしてしま

した。

市町駅伝掛川チームの強化のために、ススキ(株)にコーチ派遣を依頼し、順位をあげ感謝されています。また、今夏の第97回全国高校野球選手権静岡大会には、在校生の大健闘に応援メッセージを送りました。

在校生に受け継がれてこそ同窓会。在校生参加の支部総会も検討中です。掛川は、初代校長・尾崎楠馬先生の郷里の高知と深い縁があり、「土佐っぼ」は報徳思想に繋がります。生涯学習市政に、陸上部の高13回坪井安さん(故人)作詩の「ありがとう」の歌が貢献しています。

※伊藤菊造先生は、尾崎楠馬先生の薫陶を直接受けています。

磐田支部長



高14回 青島 克樹

「楽しい同窓会」に

先輩諸兄から賑々と受け継がれてきた見中・磐田南高校の建学の精神と伝統を次の世代にも伝えてゆきたいとの熱い思いで、本年も4月18日、磐田グランドホテルに於いて、160名の皆様のご参加を得て、磐田支部総会を開催することが出来ました。

各年次の評議員の皆様を中心に声を掛け合い、誘い合い、ご努力を頂いた賜物と感謝いたしております。やはり、いざとなれば母校のため、後輩のためにお



磐田支部幹事懇親会

力を貸して頂ける先輩の皆様のご参加を心から歓迎いたします。

松田校長、伊藤同窓会長、大橋後援会長など来賓の方々二人の衆議院議員・宮澤博行さんと小山展弘さんにもご出席いただきました。

関西支部長



高11回 青島 敏行

古都の紅葉を愛でながらの

語りごと親睦

私は、昭和42年鳥取大学医学部卒業後、インターンとして京大病院に来て以来ずっと関西に在住、勤務医として生活してきました。京大関連病院での勤務後、大津赤十字病院皮膚科部長を26年務め、その後滋賀県赤十字血液センター1所長として6年間献

血の仕事に従事してきた。70歳定年退職後は非常勤医師として同センターに勤務している。

年次・OB会

活動報告

奇縁に生まれ

米寿で語る

中19回 倉島 秀行

我等、昭和の黎明に生を受けた164名の同期生。霊峰富士に生まれ勇姿を仰ぎ見つつ、激動の時代を今日まで生き抜いてきた50余名。平和な日々の中で、「富士山世界遺産登録」のニュースが聞けたことに感謝無量である。

終戦70周年を経て、19回生の記念誌「戦禍のなかの青春」の頁を開けば仲間達の希望に満ちた姿が目飛び込んでくる。暗い影が迫り来ていた中学生時代後半には生徒動員で勉学どころではなかった。終戦後、戻らぬ者もいた。帰れた者は15にして立てた志を買き各々の道で自分を生かした。

それから幾星霜。14人が集まったこの7月の同窓会を最終として締め括った。

8月の総会担当年次の高校46回生11名による「縁ジョイ」のアピール、次年度担当47回生4名のリードによる校歌斉唱、本当に力強く元気づけられました。建学の精神が若い世代に受け継がれてゆくことを願っています。

今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

健康確認ゴルフ会 高19回 鈴木 裕司



年以上前から毎年2回健康確認に集合しています。ゴルフの後に19番ホールに向かうメンバーも居て、楽しい時間を過ごしています。毎回5組程度の人数が集まり、新メンバーも加入し増加しています。ベスグロは、沢田健・森下茂、阿部和彦が競っています。年々、スコアは伸びなく、ドライバーの飛距離は落ちますが、楽しく集まっています。新メンバーの参加を待っています。定例会場は、豊岡カントリーで、横山宣博が、定年を過ぎても、フロントに居ますので、横山まで電話で申し込んで下さい。この会のみとめ役で、一番楽しんでるのは、生田徹です。9月22日に今年の2回目を開催しました。

3つ6年

高24回 老川 嘉子

三年前、高24回生の同窓会の二次会で「女子会やろうよ」と声が上がったことが、きっかけでした。「24回生だから二月四日近辺で、駅前の店なら集まりやすいね」と。連絡はクラスの代表から電話にて。

当日は、美味しいランチとお喋り。毎回二、三十人が参加。東京や京都など遠方からの参加者もあり盛り上がりです。わずか三時間ですが、次回の月日と場所を決めて終了。

これからも年一回、気軽に顔を合わせて、お喋りができたらいいなと思っています。

支部総会に参加を

関東支部

支部長 落合 高17回
住所 横浜市戸塚区矢部町1029
電話 045(881)2866
総会日 平成27年11月14日(土)
13時30分~16時30分
会場 デイ・ナイト大手町店

静岡支部

支部長 鈴木 一雄(高24回)
住所 浜松市中区広沢2の27の20
電話 053(451)3950
総会日 平成27年10月21日(水)
18時30分~20時30分
会場 ホテルセンチュリー静岡

掛川・菊川支部

支部長 橋本洋子(高14回)
住所 掛川市野205
電話 0537(22)9563
総会日 平成28年1月9日(土)
会場 パレスホテル掛川

袋井支部

支部長 松本 貴(高16回)
住所 袋井市岡崎3928の3
電話 090(7676)0227
総会日 平成27年7月25日(土)
会場 袋井市総合センター

磐田支部

支部長 青島 克樹(高14回)
住所 磐田市城之崎4の11の11
電話 090(2610)1509
総会日 平成28年4月23日(土)
会場 磐田グランドホテル

豊田支部

支部長 芥川 知孝(高20回)
住所 磐田市池田1288
電話 0538(35)2564
総会日 平成28年2月14日(日)
13時30分
会場 磐田商工会豊田支部F会議室

北遠支部

支部長 生熊 克己(高17回)
住所 浜松市天竜区 二俣町二俣957の1
電話 053(922)0117
総会日 平成27年10月17日(土)
会場 栄林寺

東海支部

支部長 大橋 正隆(高8回)
住所 名古屋市中区 白鯉1の27の2の301
電話 052(972)7663
総会日 未定
会場 未定

関西支部

支部長 青島 敏行(高11回)
住所 滋賀県大津市 鳥居川町6の35の10118
電話 077(533)6828
総会日 平成27年11月8日(日)
会場 未定(HIPに掲載予定)

卒業生は 今

岩手県上閉伊郡大槌町の 震災復興事業に携わって

高22回 兼子 和彦



■プロフィール
（株）東京建設コンサルタン
地域環境事業本部長
……………

卒業してやがて半世紀、元氣なつもりですが、あちこち不具合のある高齢者になりました。建設コンサルタンとして、公共事業の調査・計画・設計等に携ってきました。今の会社は大学卒業後3回目の職場です。
この会社に転職するこ

とが決まった年に東日本大震災が発生し、縁あって岩手県大槌町の復興事業に関わることになりました。大槌町では、人口1.6万人のうち約1割の方々

が死者・行方不明者となりました。岩手県沿岸部では、最も被災者の割合が多かった地域です。町長をはじめ現場職員の幹部クラスが、役場前の災害対策本部で津波に襲われ亡くなりました。

新しい町長は8月に決まり、そこから復興事業がスタートしました。私たちは東京大学と連携し、東京2社、盛岡1社の計3社がチームを組み、町の総合的な復興計画・設計を支援してきました。

碓川町長は住民主体のまちづくりを公約しました。町内を10地区程度に分け、地区ごとに住民協議の場を設け、新しい住宅地と産業集積の造り方、防潮堤の整備方法などを議論しました。まさに激論でした。

防潮堤を高くして街をつくる地区、防潮堤は現状程度で高台に街をつくる地区に分かれました。この後、土地の取得が難航しました。用地の取得が困難とわかった計画・設計を修正します。この繰り返しが2年程度続きました。今年で復興に着手して



法螺から生まれた 日本一元氣な小さな総合商社

高33回 寺井 良治



■プロフィール
イービストレード(株)社長
著書『日本一元氣な30人の総合商社』(小学館)
……………

高校を卒業して大学の理工学部に進学しましたが、卒業研究で自分は白衣が似合わないことを痛感したため、就職は研究所のない業界を選び、商社に入りました。決して商社の仕事に大きな夢を描いていた訳でもなく、そもそも商社が何をしているのかも知らずに入社したのですが、今では自ら商社を経営しているのですから人生とは面白いも

のです。そんな人生の転機は、2001年1月東京は神田の焼鳥屋で上司が切り出した、「イービストレードに行ってみて直しをしてくれないか」という突然の人事宣言でした。このイービストレードとは血氣盛んな若手社員が立ち上げた大手商社初の社内ベンチャーで、インターネット上に売上4兆円の総合商社を創造するという彼らの大法螺により設立されましたが、その後ITバブルと共にビジネスモデルも崩壊、会社の存在意義すら失われ瀕死の状態でした。

一方、当時私は38歳、課長になったばかりで会社の経営など経験はありません。また、自分には世の中のベンチャー社長が社長を目指すようなストーリーは持ち合わせておらず、ベンチャー企業や社長業には全く興味がありませんでした。そんな訳ですので、本音を言えば不承不承引き受けこの会社の再建に取り組みましたが、気が付けば5つのユニークな事業を運営し、「日本一元氣な小さな総合商社」と称される会社のオーナー社長になっていました。

今の若い人達には、もっと大法螺を吹いて欲しいと思います。格好の良い夢など語らなくてよいので、周りの人達や自分自身を鼓舞する元氣な法螺を吹いてください。肝心なのは、その法螺が虚言にならないように必死に努力して後付で真実にする事です。
ちなみに当社はこの度、鹿島アントラーズと一緒に日本初のスポーツクリニックを開業しましたが、これも2年前に吹いた法螺を後付けで事実にしたものです。そして今また、次はどんな法螺を吹こうか考えています。



鹿島アントラーズスポーツクリニック開設記者会見
(二〇一五年五月九日)

校舎の窓から

高24回 永田道子 (筆名・梓澤要)



■プロフィール
平成五年、歴史文学賞を受賞してデビュー。
おもな著作『喜娘』『阿修羅』『橋三千年』『唐衣』以上奈良時代もの。
『越前宰相秀康』『女にこそあれ次郎法師』遠州が舞台の作品。
……………

高校時代という真っ先に思い出すのは教室から見た国分寺跡の光景です。当時はまだ現在のような整備された史跡公園ではなく、松の大木が立ち並び、ところどころ大きな礎石が顔を覗かせているだけの草地、のどかな原っぱでした。母校もまた木造校舎で、(在校中に鉄筋校舎に建て替えられましたが)、一年生時の教室から南側にその景色がよく見えました。

授業中、窓の外に眼を転じると(よそ見ですね)、木々が風にざわめき緑の草がそよいでいたのをいまでもよく憶えています。正直に申しますと当時はそこが国府と国分寺の遺跡で、いつてみれば遠江国の政治と文化の中心であったことはほとんど意識していませんでした。ただ、吹き渡る風や陽の光、青々とした草の原。まさに青春の一シーンですね。何を考

えていたかはもう思い出せませんが。高校卒業後は明治大学で考古学を学びましたが、その遠因になったのは中学生の時、夏休みに友達と銚子塚古墳など磐田原台地に点在する古墳を見に行き、なんとなく考古学に興味を持ったことからでした。夏草が生い茂る古墳と眼下に天竜川とのびやかな平野が広がる胸のすくような光景もまた、いまも記憶に鮮やかです。
この二つの記憶は、自分が将来まさか歴史小説を書く作家になるとは思ってもいませんでしたし、まして作家志望などではありませんでしたから、誰もにある子供時代のなつかしい光景と思い出にすぎませんが、考古学をかじったおかげで古代史が理解しやすかったことから、奈良時代を材にした歴史小説でデビューしました。人生というの面白い巡り合わせがあるものです。現在は、古代、中世、戦国、江戸時代とさまざまな時代を書きますが、人の氣質や思想は生まれ育ち、暮らしや土地の氣候風土に大きく左右されるものだと痛感します。環境が人を育むということです。

あれから

高8回 澤井佳子

プロフィール

日本陶彫会会員
アート未来会員・理事・審査員
第五回国際公募アート未来展
新人賞(二〇〇〇年)
第十五回国際公募アート未来展
アート未来大賞(二〇一〇年)



『吟唱』

卒業60周年を記念して
母校に寄贈

南高時代を思い浮かべると、真夏の太陽・突き抜ける様な青い空・遠くに輝く純白な入道雲が頭の中一杯に広がる。あの時代の楽しさ、喜び、苦しみ、怒り等の感情が全て昇華しきった後の風景なのだろうか。

私の南高時代は女子の数が年で30名程度の少ない年であった。だから皆、仲が良かった。私達は幼い時に戦争を体験し、敗戦、戦後、震災等大きなことを沢山経験している。それ故、私達は戦友以外の何者でもない。又自身の青春時代は砂川基地闘争に始まり安保闘争を体験し、いい知れぬ挫折感、絶望感、無

力感と怒りをたっぷり味わった人生でもある。

私がその壺に出会ったのはまさに偶然であった。電車から駅の壁に貼られたポスターの中にその壺があった。即、その壺の作者伊奈久先生の弟子になった。先生が言われるままにデッサンの勉強に通い、先生の勧めに従い陶彫の道に進んだ。私は一生続けたいと思える仕事を掴むことができたのだ。当時は勤めを辞めずに、夜のデッサンや彫刻の勉強は、今から思えば大変であったが苦痛とも思わない若さがあった。こんなに自分が自由に表現出来る面白い世界が

存在するのだという、わくわくする思いも手伝ったのだろう。

今私は、これ迄の人生で、あの意味、最も自由で素晴らしい幸せな時間の中にいる。何ら自分を拘束する価値観も無ければ、何にもとらわれる事の無い世界がある。



2015 アート未来展『天空の星を射よ』

名譽な事で、私は作品の中から「吟唱」を選んだ。皆が心を一にして深い思いを持って朗々と吟唱している姿である。

計測工学の研究と教育の五十年

高13回 青島伸治



プロフィール

筑波大学名誉教授
工学博士
日本音響学会 佐藤論文賞
(昭和四十四年五月受賞)

.....

私は昭和十八年生れの七十二歳ですから、磐田南高を十八歳で卒業してから五十四年になります。最近の四年間は完全に隠居ですので、勉強・研究・教育

の生活がちやうど五十年続いたことになりました。最初の九年は大学と大学院での勉強と研究の時代で、所属は教養学部理科1類、工学部計測工学学科計測工学専攻、大学院工学研究科応用物理専攻と変わりました。

一般に理工系の大学院ではどの研究室に所属するかで日常生活もその後の運命も大いに変わります。私は大学付属の宇宙航空研究所の研究室で大変楽しい五年間を過ごしました。大学院での研究課題は音や振動がどのようにはたらくかを相関法という方法を使って調べるといふものでした。

繋ぐ

大学院を修了した後は引き続き同じ研究室で助手になりました。二十七歳でやっと給料をもらう身分になったわけです。その後五年間助手を勤めました。私の場合は教授から用事を言いつかることはほとんどなく、好き勝手に自分の研究をし、その間に一年間、英国留学までしました。

昭和五十年に熊本大学工学部の助教授となり、「計測工学」の授業を担当しました。以後、筑波大学、帝京平成大学と勤務先が変ってもずっと計測工学の授業の担当を続けました。

大学院を修了した後は引き続き同じ研究室で助手になりました。それは実験を基礎とするすべての自然科学の出発点となります。工学においては作った製品が予定通りのものであるかどうかを計測し、製造過程で装置が予定通りに動いているかどうかを知り、正しく動くように制御するための前提として計測すること

は極めて重要です。また医学における新しい計測装置の進歩には驚くべきものがあります。私自身の研究領域はマイクロプロセッサによる信号処理を利用した計測法の開発というもので、中でも「高速フーリエ変換

を利用したインパルス応答の新しい計測法」は自分ながら会心の仕事であったと思っています。教育の面では、私の研究室の学生には細かな指示はせず好きにさせていました。自分の場合がそうだったから学生にもそうそれでよかったかどうかは判りません。

引退した現在は読書、ゴルフ、庭いじりなどで日を送っています。最近では磐田南高校の同期で関東地区在住者の集まりなどにも出席して、昔を懐かしんでいます。

外国人留学生との交流

高23回 大橋幸生



プロフィール

ベトナム静岡マイホアン日本語学校理事長
ベトナムV.T.M.H.R日本語学校名誉会長

.....

地元の会社を退職して6年、今、自由な時間ができて、この生活を益々充実したものにした

考えています。

日本の各種学校には高い教育力があるのに、若者の人口減少が大問題で、海外からの留学生を歓迎しています。ある大学では留学生招聘制度を設けたり、別の専門学校では留学生の専門コースを新設したりしています。ベトナムなどの発展途上国の優秀な若者が日本語を学び、日本の大学や日本の会社で技術・技能・マナー等を学ぶことは、親日派を増やすことにつながります。自国に戻って日系企業で働いたり、日本の中小零細企業等の支援を得て日本製品を売ったり修理したりしてくれるなら、超成熟社会である日本の一つの再発展モデルとなるでしょう。

起業は大変です。やってみて撤退した事業も沢山あります。今、私が関わって発展している事業は、インターネット広告事業、旅行社、現地日本語学校です。特に現地日本語学校は、3人のベトナム人留学生が、それぞれ、ハノイなどで開講しています。大半の学生は日本語を希望しています。そして日本の大学や専門学校で勉強して、日本で就職したり、現地の日系企業へ就職したり、或いは起業を

私は自分の畑に居ながら、彼らとスマートフォンで会議をしたり、日報を受けたり、アドバイスをしたりしています。協力してくれる日本人も増えて来ました。株主になった友人は、現地の株主総会参加を楽しみにしています。そして、留学生連の夢づくりの相談に乗ったり、起業家達とスカイプやフェイスブックで交流している時、気分は学生時代に戻ったように若返ります。



ベトナム人留学生をセントレアで出迎える



浅羽佐喜太郎

故郷の周辺を訪ねて 深まりつつある日越交流

～ファン・ボイ・チャウと浅羽佐喜太郎の交流を継承して～

取材：浅羽一芳（高9回）



ファン・ボイ・チャウ(右)とクオンデ侯

「百年前のアジアと日本」

袋井市梅山の常林寺境内に「浅羽佐喜太郎公紀念碑」があります。

この碑が建立されたのはおよそ百年前の一九一八（大正七）年のことです。

碑の完成時に撮影された写真には、当時の東浅羽村長岡本節太郎（前列右端）、ベトナム独立運動指導者のファン・ボイ・チャウ（二八六七～一九四〇）（前列右端から二人目）等の姿が見られます。



浅羽佐喜太郎公紀念碑完成時の写真（1918年）

ファン・ボイ・チャウは、ホーチミンとともにベトナムの歴史教科書に登場するベトナム独立運動の国民的英雄です。一八八四（明治十七）年、ベトナム阮王朝はインドシナ半島の進出をはかるフランス軍の攻撃を受けて倒れ、三年後にはフランスの植民地となりました。

以後、愛国運動、武装抵抗運動が展開され、阮王朝の復興と植民地支配からの脱却を図るべく多くの政治的結社が生まれました。一九〇四年にファンを中心として結成された維新会はその一つであり、日本の明治維新にその範を求め、阮王朝の王族クオンデ侯を盟主として活動していました。

ファンらは国内で新聞・雑誌を発行するなどして民族意識の高揚に努めると同時に、国外から武器援助等を求めて奔走しました。特に日露戦争で強国ロシア帝国に勝利した日本には同じアジア人として期待を強め、独立運動の幹部養成を目的として数多くのベトナム愛国青年を日本に送り出しました（「東遊運動」）。

渡日学生は最盛期には、ファンやクオンデ侯を含め二〇〇人以上に達しました。当時の日本にはアジア諸国の独立運動を支援する犬養毅、大隈重信らの有力者がおり留学生たちは東京の同文書院等で教養教育と軍事訓練を受けていました。

「留学生退去を命ずる日本政府」

しかし一九〇七（明治四十）年、日本とフランスは共にアジアに進出する中で、アジアにおける両国の権益を認め合い日仏協約を締結しました。これを受け日本政府は、一九〇八（明治四十二）年、東遊運動を展開するファンらに組織の解散と国外退去を命じました。この結果、東遊運動は行き詰まり、故国の愛国運動組織や家族からの送金も途絶え、帰国旅費の工面さえも困難となりました。この時、支援の手を差し伸べたのが浅羽佐喜太郎（一八六七～一九一〇）でした。佐喜太郎は袋井市梅山の八幡神社の神主の家系に生まれ、東京帝国大学医科に学び神奈川県前羽村現小田原市で病院を開業していました。佐喜太郎は、粗食と過労で行き倒れとなった一人のベトナム人留学生を救い、学費を支援するなどした人として留学生の間では密かに知られていました。

「佐喜太郎の死と記念碑の建立」

ファンは出国後、中国の広東においてベトナム光復会を設立するなど独立運動を継続しましたが、出国した翌年佐喜太郎が病氣のため死去したことを知り、墓前に報恩の記念碑を建立することを決意しました。離日十年後の一九一八（大正七年）、ファンは密かに来日し、佐喜太郎の故郷である東浅羽村（現袋井市）を訪ねました。

しかしながら、記念碑の建設資金がファンの所持金では足りず、追加資金の用立てが必要になりました。この事態を今度は東浅羽村の村長と村民が救います。村長は村民に建設事業救済を訴え、村民の労力奉仕とファンの所持金により高さ二・八米の記念碑が完成しました。

碑文には次のような言葉が刻まれています。「われらは国難のため扶桑（日本）に亡命した公（佐喜太郎）はわれらの志を憐れんで無償で援助してくださった。公は頼まれざる義侠の人である。ああ、今や公はいない。蒼茫たる天を仰ぎ、海を見つめて、われらの気持ちをこのように、誰に訴えたらいいのか。ここに、その情を右に刻む」（原文は漢文、要約）

「碑の再発見と日越交流への取組」

この歴史的秘話について、当の浅羽家では積極的に口外することはありませんでした。このため、地元でも碑建立の顛末はもとより、碑の存在そのものへの関心も次第に薄らいでいきました。

大きな転機をもたらしたのは、地元有志による郷土史学習グループ「浅羽町文化財研究会」（現浅羽史談会）の取組でした。研究会に集う人々は、地元の郷土史家である故柴田静夫氏等の地道な先行研究を踏まえて、碑の建立の経緯を政府の外交関係資料に当たるとして調査し、碑の価値を多くの人に周知する活動を開始したのでした。

二〇〇三（平成十五）年には、浅羽町文化財研究会や同文化協会等の主催により「記念碑建立・浅羽ベトナム友好八十五周年記念式」が常林寺等を会場に開催され、ファン及び佐喜太郎のお孫さんご夫妻が碑の前で劇的な対面を果たされました。

こうした活動を基盤として、二〇〇五（平成十七）年、地元有志により「浅羽ベトナム会」が結成されました。会員たちは、同年ベトナムで開催された「東遊運動百周年記念行事」（フエ市主催）に招かれ、東遊運動の歴史的意義を検証するシンポジウムに参加するほか、記念碑に関する展示会を開催しました。また、東京芸文大学のベトナム人留学生の卒業作品であるドキュメンタリー映画「ファン・ボイ・チャウの見た二つの日本」の制作や国内での上映会開催にも協力してきてました。

その後、袋井市とベトナムとの交流は市レベルのものとなり、佐喜太郎没後一〇〇年・ファン没後七十年にあたる二〇一〇（平成二十二）年に両国で開催された「ベトナム袋井交流会」



ファン没後70年等を記念して寄贈した「東遊運動が生んだ日越友好之碑」（2010年11月）

「広がりを見せる草の根の日越交流」

袋井市では、二〇一三（平成二十五）年の日越国交樹立四十周年を機に、狭隘であったクアンナム省のレ・ロイ小学校に教室を増設しようという、市民による「ワンコイン・スクールプロジェクト」が展開され、市内小学生による募金を含め約八百八十万円の募金が寄せられました。昨年八月の新校舎完成を祝う式典には市長はじめ二十七名の訪問団が参列しました。現在、浅羽南・高南両小学校とレ・ロイ小学校の児童は手紙を交換するなどして交流を深めています。

このほか、毎年二十五名程度の留学生が市内の日本人家庭で二泊三日の生活を体験し交流を深める短期ホームステイも今年で七年目を迎えます。これらは正に佐喜太郎の心を現代に継承しようとする活動といえます。

十数年前に始まったささやかなベトナムとの交流活動は時代の変化と進展に合わせて大きく広がっています。



子どもたちの歓迎を受ける駐日ベトナム大使（中央）と袋井市長（右隣）



袋井ベトナム交流会議の折、展示会場で折り紙に興ずる女子大生（2010年フエ市）

校長あいさつ



校長 松田好道

見付中学・磐田南高等学校同窓会の皆様には、母校の教育活動にご理解とご支援を賜り、深く感謝いたします。

今年の夏は、猛暑が続きましたが、生徒は、それ以上に熱く頑張ってくれました。野球部は、全国高校野球選手権大会静岡県大会において、初めて、準決勝に進出しました。当日は、全校生徒が草薙球場で応援、グラウンドとスタンドが心を一つにして歌った校歌は、これから20年、30年後も、

高校時代の貴重な体験として生徒の心に残り続けることと思います。文化部では、地学部が全国高等学校文化祭自然科学部門の発表で、最優秀賞を2年連続で受賞しました。また、スーパーサイエンスハイスクールの指定を受けている全国160校が一堂に会し、課題研究の成果を発表する大会では、理数科3年生が、全体の4校だけに贈られる

はぐま祭を開催することが出来ました。ご協力ありがとうございました。ご報告させていただきます。

先日、壮行会の後には、はぐま実行委員長と副委員長長の二人から、生徒会本部役員五人へサプライズで花束のプレゼントがありました。私たちは何も知らされていなかったのですが、驚きでしたが、改めて生徒会本部の仕事を終えた達成感と支えてくれた人の存在の大きさを感ずることが出来ました。

生徒会本部や行事の運営に関わって下さった方々、今までありがとうございました。私たち三年の本部役員は引退となりませんが、寺澤会長と田中副会長の新しい生徒会本部にもご協力、よろしく願います。

はぐま祭を振り返って

生徒会長 3年 古田瑞歩

生徒会本部では、今年のはぐま祭を開催するために一年前から仕事を始めていきました。はぐま祭は磐南最大の行事ということで、たくさんの方が関わりの長い時間をかけて準備が進められました。



本部役員の人数が足りず出来るのが減り、式典をするにも人手が足りない状況でしたが、本部に手伝いに来てくれた人のおかげで開会式も閉会式も出来ました。また、閉会式では部活動やクラスの展示や公演にかける思いを感じることが出来、嬉しい気持ちになりました。失敗もありましたが、その失敗をカバーしてくれた本気ではぐま祭に取り組んでくれたりした人のおかげで、とても感動的なはぐま祭になりました。たくさんの方の協力があり



第12回 マウンテンビュー高校 訪問記

平成27年3月19日~29日

一期一会 chance of meeting 3年 猪多由菜

アメリカに行ってきた。見える世界は変わった。180度どころか360度、自分にとって当たり前だったことが違ったように見えて、何もかもが新鮮でいい刺激になった。私は、外国の文化に興味があり、英語を使って将来いろんな国の人と働きたいと思っている。外国に行くと自分自身でその文化に触れるという事は私の夢の一つだったから、今回の研修でアメリカに行かせてもらったことは、私にとって大きな意味を持った、人生に関わるとても大きな出来事であると思う。

一年前、私はホストファミリーとしてMVの生徒の受け入れを経験した。しかしその時は、自分の英語力不足で、思い描いていた通りにうまく英語が話せず、自分の未熟さを思い知らされた。本当にその時は悔しくて、自分のスキルを高め、絶対アメリカに行つてこの悔しさを晴らそうと思つた。ホームステイを通して、一年前の自分と比べたら、



私は英語力(特に会話力)を高めることができたと思う。でもやはり、ばつと言いたいことを口に出して言えなくてスムーズに会話できなかつたり、ネイティブの表現やスピードについていけなくてちゃんと聞き取れなかつたりなど、新たに課題が見つかったから、もっとたくさん会話できるようにさらに自分の英語に磨きをかけたいと思う。この10日間ですべての思い出はたくさんあって書ききれないが、特に仲良し6人組(ホスト3人、日本人3人)で過ごした時が一番楽しかった。slumber party(お泊り会)では映画を見たり、ブラウニーを作ったり、ダンスをしたりして、アメリカのJKになれたように楽しかった。またその6人と家族のみんなでのGolden Gate BridgeやMuir Woods、GHIRARDELLIなどいろいろなところを観光した。最も嬉しかったことは、昨年私がホームステイの受け入れをしたIsabelに会えた時である。Isabelと話した時、嬉しすぎて涙が止まらなかつた。ホームステイ最終日には、ディナーを家族と食べていろいろな話をすることができたし、日本の文化である折り紙やお箸の使い方などを教えてあげることができて楽しかった。最後の夜に家族のみんなと写真を撮ったときは別れが悲しくて、私を本当の家族のように接してくれたこの家族のもとで、ホームステイさせてもらって本当に良かったと、感謝の気持ちでいっぱいである。MVで出会った人はみんな優しく、いい人たちがばかりで、別れる時がつかつたけど、どの思い出も楽しくて忘れることができないと思うから、ずっと大切にしていきたい。

は努力をする。そして、再会した時は、今の自分より成長した自分を大好きな人達に見せたい。

I'll be back! 3年 増田竜樹

研修生を募るお知らせのプリントが初めて僕の手元に来たとき、確かに何かを感じた。その瞬間から、「このホームステイは絶対に人生をいい方向に変えてくれる。」と僕の直感が思うようになった。

この10日間は、何もかもが新鮮ですべてが輝いていた。人生で初めてのホームステイですごく緊張したが、歓迎会での初対面とき、ホストのJaredとハグをして緊張が一気にほぐれた。何もかもが初めてなホームステイが始まった。ホストの家では、夕食を済ませた後、基本リビングでんびりしていた。ホームステイが始まって数日経った頃、Jaredと「ベイマックス」を見ようということになった。もちろん、全編英語で見た。今まで英語で映画を見たことが一度もなく、自分でも絶対無理だと思っていた。でも、映画が始まると、このホームステイで耳が英語に慣れて、聞き取ることができた。そして、涙もろい僕は終盤に感動して泣きそうになった。英語で映画を見て感動できたのが嬉しかった。また、この映画の舞台がサンフランシスコと東京を合わせた架空の世界で、映画の途中に日本文化の紹介もできた。他



の日は、家族皆でボードゲームをしたり、一緒にアイスホッケーの試合を見たり、Jaredとスケボーで遊んだり、子犬を近所さんに見せてもらったり、とても楽しく過ごせた。休日には、郡立公園や水族館に連れて行ってくれた。本当に素敵な時間を過ごすことができた。ホストファミリーに感謝したい。

MV高校での生活はすごく充実していた。誰もがあたたかく迎えてくれた。毎朝7時から8時まで、Jaredと一緒に図書館で過ごしたのだが、そこでたくさんの友達が出来た。僕に話しかけるときは、気を遣ってゆっくり話しかけてくれて、日本のことに興味を持ってくれた。その時は、日本の桜の写真を見せたり、きこちななかったものの英語でその説明をした。その時の時間は、アメリカの高校生と同じものを見たこと聞いたりして笑えたこと

が、すごく嬉しかった。マウンテンビューを出発した後、SFとLAの観光をした。その中で印象がいちばん強く残っているのは、「全米日系人博物館」である。その展示は、戦時に日系人を強制収容したこと、重きを置いていた。その当時、日系人はアメリカ人の、特に白人による差別を受け、狭い収容所で生活を強いられたという出来事を知った時、もちろん日本人として心が痛んだ。しかし、アメリカ人に対する憎悪の気持ちは生まなかった。むしろ、あなたにあなたを歓迎してくれたいことに感動して涙が出た。それと共に、当たり前だと思っていた今の状況が特別なことで、それに感謝をしたいと思った。

この研修旅行では、本当にたくさんのお話を吸収できた。同じ年頃のアメリカの人たちが、日本とは異なる文化や考え方を持っていることが分かった。そして、この国の高校生も同じだと思えるような共通する部分もすごく多くあった。この研修旅行で一生の宝物になった。このような素晴らしい経験をさせてくれた家族をはじめ、先生方やこの研修旅行に協力してくれたすべての人に心から感謝をしたい。今、最初にプリントをもらった時の直感がばっちりの中だと感じる。これから、感謝の気持ちを持ち、この経験を生きか

していくことが一番の恩返しになるだろう。最高の時間を本当にありがとうございました！
I'll be back!!

磐南に入学して1年 辻本泰雅

私たち一年生が入学して、二ヶ月ほど経ちました。この二ヶ月間で、中学校との違いを大きく分けて二つ感じました。

一つ目は学習面での違いです。私の中学校時代の学習は、ゆったりやらなかったりと、とても不規則でした。また、集中力が途切れることもありましたが、それが高校生になり、学習の習慣と、集中して学習に取り組みむことの大切さを知りました。それは量が多くなり、内容も難しくなったことにより、時間が足りなくなってしまうようになったからです。またテストでは、中学校とのレベルの違いを見せつけられました。このままでは置いていかれると思



いました。そうならないために、中学までの学習スタイルを捨て、核の二時間を意識した、高校での学習スタイルを作っていくかと思えます。

二つ目はエネルギーの違いです。私の中学にも行事はあり、それはとても盛り上がりがありました。しかし、先日の「はぐま祭」に参加して、中学の比ではないと思いました。また、部活に入り、先輩たちの全力で取り組む姿も見ました。学習だけでなく、文化祭や、部活に、学校全体、部活全体で全力で取り組む、それが磐南生なんだと思いました。

これらの二つの違いから、私はまだ、先輩たちのような磐南生には、なれないと思います。自分に足りないものは何かを考え、実行し、一つずつ集め、磐田南高校にふさわしい生徒になれるよう、努力していきたいと思えます。

平成26年度「高校生が選ぶ直木賞@磐南」活動記録

「高校生が選ぶ直木賞」は、現在では、文藝春秋社の全面的なバックアップを得て、正式名称も「高校生直木賞」となりました。本校は東京都・麻布高校、岩手県・岩手県立盛岡第四高等学校、福岡県・筑紫女学院高等学校と並んで、「高校生直木賞第一回全国大会」に参加した四つの高等学校のうちの二校です。

「高校生が選ぶ直木賞@磐南」の二回目となった平成26年度の活動は、一年生7名、二年生12名、計19名の参加者がありました。二年生の内、10名が昨年からの継続しての参加であるため、本年度の活動は大変スムーズで、話し合いの質も向上しました。

第151回直木賞候補作から「高校生が選ぶ直木賞@磐南」を選考する

夏休み直前に、第151回直木賞の候補作を参加者全員に配布し、夏休みを使って読破するように指示しました。そして、8月29日金曜日、2学期の始業式の午後、「高校生が選ぶ直木賞@磐南」選考会議を行いました。

第151回直木賞の候補作6作の中から高校生が選んだのは、2作です。

● 柚木麻子氏「本屋さんのダイアナ」

● 貴井徳郎氏「私に似た人」

選考方法は、参加者をくじ引きで3つの班に分け、まず、各班でもっともよいと思う作品を1編から2編選び、そのあと、各班の代

表者2名ずつ、6名で受賞作を決定するという話し合いの形態をとっています。

平成25年度も、実際の直木賞受賞作は、「高校生が選ぶ直木賞@磐南」では、一作も最終選考に残ってきませんでした。26年度も、第151回直木賞受賞作は班ごとの話し合いの時点で早々に候補から外されてしまいました。

朝読書の指定図書を高校生が決める

平成26年度入学生は、学年の指導方針で朝読書を行っていますが、11月には、一年生に勧めたい朝読書の指定図書を「高校生が選ぶ直木賞」参加者で決める、という活動も行いました。

これは、参加生徒が各自気に入った書籍（但し購入ものに限った）を持ち寄り、直木賞と同じ手順で、朝読書の指定図書を決める、という形の活動です。このときは、「失われる物語」・森見登美彦「雪山万華鏡」の2作が選ばれました。

自由に自分たちで作品を持ち寄った場合、直木賞で選ばれた作品とはまったく違う傾向のものが選ばれたことを興味深く感じました。

日であり、冬休みを使って候補作を読み込みたいのですが、昨年同様、候補作の入手に手間取り候補作が生徒の手に渡ったのは、年が明けての新学期に入ってからになってしまいました。さらに、昨年同様、候補作のうち1作品がどうしても入荷出来ず、4作での選考会となりました。

今回、入手不可能だったのが、第152回直木賞受賞作、西加奈子氏「サラバ！」であったのが大変残念です。

生徒は残り4作の中から、木下昌輝氏「宇喜多の捨て嫁」を「高校生が選ぶ直木賞@磐南」の受賞作に選出しました。

第二回高校生直木賞全国大会に参加する

平成27年5月5日(火・祝)に、東京都千代田区文藝春秋本社で行われた「第二回高校生直木賞全国大会」に本校の代表が参加しました。三時間以上の激論の後、本校が推した「宇喜多の捨て嫁」が高校生直木賞を受賞しました。

この模様は、平成27年6月22日発売の「オール讀物七月号」に詳しく掲載されました。

12月に第152回直木賞の候補作5作が文藝春秋社から発表されました。直木賞の選考日が翌年1月15

日であり、冬休みを使って候補作を読み込みたいのですが、昨年同様、候補作の入手に手間取り候補作が生徒の手に渡ったのは、年が明けての新学期に入ってからになってしまいました。さらに、昨年同様、候補作のうち1作品がどうしても入荷出来ず、4作での選考会となりました。

今回、入手不可能だったのが、第152回直木賞受賞作、西加奈子氏「サラバ！」であったのが大変残念です。

生徒は残り4作の中から、木下昌輝氏「宇喜多の捨て嫁」を「高校生が選ぶ直木賞@磐南」の受賞作に選出しました。

第二回高校生直木賞全国大会に参加する

平成27年5月5日(火・祝)に、東京都千代田区文藝春秋本社で行われた「第二回高校生直木賞全国大会」に本校の代表が参加しました。三時間以上の激論の後、本校が推した「宇喜多の捨て嫁」が高校生直木賞を受賞しました。

この模様は、平成27年6月22日発売の「オール讀物七月号」に詳しく掲載されました。

まとめとして

2年間にわたり、「高校生が選ぶ直木賞@磐南」受賞作が、6作選出されましたが、若い世代である高校生は、物語を読むとき、「主人公の成長に己を重ねること」で深い感動を味わって

います。また、直木賞の受賞作が決まっている場合でも、生徒はその結果にまったくこだわらず影響もされないことが、2年間通して見えてきました。

本年度の大きな成果としては、昨年一年生として参加した生徒14名のうち、10名が継続参加したことが挙げられます。生徒にとってこの活動は、やりがいの感じられる有意義なものであることを示しているのではないのでしょうか。

今後の課題点は、昨年度と同様、候補作の入手です。この活動は文藝春秋社の全面的なバックアップを受けられるようになりませんが、本校での活動は、「参加者全員に一冊ずつ本を配布する」ということを特色としていきます。そのため、参加者全員分の図書の確保がやはり、今後も大きな課題です。

▶ 選考風景5月5日に行われた「高校生直木賞」代表者が参加しました。文藝春秋本社前にて記念撮影。



大学合格状況

国立大学	現役	過年度
北海道	2	4
岩手	1	
東北	11	2
山形		2
茨城	2	
筑波	6	1
群馬	1	
千葉	5	
東京海洋	2	
電気通信	1	1
東京	1	5
東京外国語	2	
東京工業	2	
横浜国立	3	
上越教育	1	
新潟	1	
富山	1	
金沢	3	2
山梨	3	
信州	4	3
岐阜		1
静岡	32	4
浜松医科(医)	4	3
浜松医科(看)	1	
名古屋	6	1
名古屋工	2	1
三重	1	
京都	3	1
大阪	3	
神戸	1	
奈良女子	2	
岡山	1	
広島	7	1
山口		1
徳島	1	1
鳴戸教育	1	
愛媛	1	
九州	2	
大分	1	1
鹿児島	1	
国立大合計	122	35

公立大学	現役	過年度
首都大学東京	6	
都留文科		1
横浜市立	4	
静岡県立	8	
静岡文化芸術	4	
愛知県立芸術	1	
滋賀県立	1	
大阪府立		2
神戸市外語	1	
県立広島	1	
長崎県立	1	
公立大合計	27	3

主要私立大学	現役	過年度
自治医科		1
青山学院	2	3
慶応義塾	5	5
芝浦工業	16	9
上智	3	
中央	20	2
東京理科	13	20
日本	22	9
法政	9	2
明治	27	5
明治学院	16	
立教	4	3
早稲田	12	5
常葉	71	
南山	18	2
同志社	25	12
立命館	34	22
関西	18	1
関西学院	4	

在校生の活躍

野球部 県ベスト4 過去最高の成績!

1回戦	磐田南	5	—	0	掛川工
2回戦	磐田南	6	—	0	駿河総合
3回戦	磐田南	3	—	0	湖西
4回戦	磐田南	7	—	0	袋井商
準々決勝	磐田南	4	—	4	知徳【引き分け再試合】
準々決勝	磐田南	2	—	1	知徳
準決勝	磐田南	1	—	1	飛龍

4年ぶりに1回戦を突破すると、2回戦では、第5シード校を撃破し、その後も野球の神様がついたかのように快進撃を続け、爽やかな磐南旋風を巻き起こしてくれました。草薙球場で迎える準決勝は、全校応援となり恒例の「ピバ!ピバ!バンナン!!」が球場に響き渡りました。

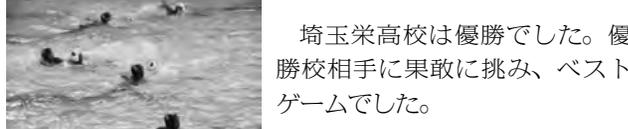


水泳部

●東海大会結果

2位 予選リーグ	磐田南	14	—	3	岡崎城西
決勝リーグ	磐田南	0	—	17	大垣東
	磐田南	9	—	7	袋井商業
	磐田南	10	—	6	名古屋

●全国高校総合体育大会 (大阪プール/大阪市港区田中)
磐田南 10-16 埼玉栄



埼玉栄高校は優勝でした。優勝校相手に果敢に挑み、ベストゲームでした。

●国民体育大会 (秋葉山公園県民水泳場/和歌山)
静岡県 14 — 15 石川県 ※PS負け
石川県は準優勝。全力を出し、静岡らしい試合が出来ました。

陸上部

●東海高校総体 (小笠山総合運動公園陸上競技場)

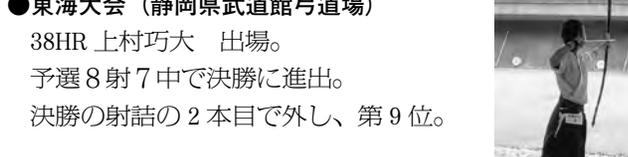
男子400mH 予選	本田 洋平 56秒35	女子4×400mR 予選	磐田南 3分51秒21
女子400m 予選	高橋 菜緒 57秒52		百鬼 葉月 中谷 桐子
女子400m 準決勝	高橋 菜緒 57秒95		田中 萌花 高橋 菜緒
女子3000m 決勝	成岡 ゆい 9分47秒65	女子砲丸投 決勝	伊藤 稔里 9m45
女子400mH 予選	百鬼 葉月 1分03秒42		
女子400mH 準決勝	百鬼 葉月 1分03秒01		
女子400mH 決勝	百鬼 葉月 途中棄権		
女子500mW 決勝	糺川 礼菜 25分28秒42		

●東海選手権 (長野松本平)
女子800m 7位入賞 中谷桐子 2分22秒66

●全国高校選抜大会 (大阪 長居)
女子棒高跳 予選 戸倉未稀 3m30

弓道部

●東海大会 (静岡県武道館弓道場)
38HR 上村巧大 出場。
予選8射7中で決勝に進出。
決勝の射詰の2本目で外し、第9位。



地学部

●第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会 (滋賀県八日市文化芸術会館)
地学部生徒7名が出席。

【研究発表地学部部門】
「遠州灘鮫島海岸で発見されたガーネットサンドの研究」
川井陸 (24HR)・前田裕貴 (27HR)・橋本恵一 (18HR)・山田翔梧 (12HR)
⇒32発表中第1席に相当する最優秀賞を受賞 (昨年に引き続き2年連続の受賞)

【ポスター発表部門】
「静岡県磐田市太田川河口で発見された歴史地震による津波堆積物の特徴と遡上範囲の推定」
藤原弘平 (25HR)・村木拓斗 (28HR)・宮平駿太 (18HR)



ビジュアル部

●第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会



囲碁部

●第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会
2年生 野崎清楓
団体戦静岡代表として主将つとめた。結果は以下の通り。
全6回戦 2勝4敗 48チーム中37位。

●第39回文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会 (東京 日本棋院会館)
一次リーグ敗退 2勝1敗で6校中2位
女子団体戦 K組 (静岡、岡山、神奈川、高知、岩手、山口)
野崎 (2年)・菅野 (2年)・竹下 (2年)・板倉 (1年)

SSH

●生徒課題研究発表会東海地区フェスタ
久野将也 鈴木崇弘 長谷川七穂 平野莉帆 による発表が、「ポスター発表部門」で特別賞を頂きました。

●SSH生徒研究発表会 (インテックス大阪/大阪市)
科学技術振興機構理事長賞
「遠州灘鮫島海岸で発見されたガーネットサンド中の磁鉄鉱の起源」
三分一所佑輔・上村巧大・松本祐弥・宮本拓弥・村松卓実

この研究は地学部との共同研究で、8月1日の高等学校総合文化祭では地学部が口頭発表で最優秀賞、SSH生徒研究発表会では課題研究地学班がポスター発表でJST理事長賞を受賞したため、口頭発表とポスター発表のW受賞になりました。

剣道

●東海高校総体
6月20日、21日 静岡市北部体育館
予選リーグ 磐田南 1 — 3 麗澤瑞浪
磐田南 0 — 2 鈴鹿
磐田南 0 — 3 岡崎城西
決勝トーナメントには進出できず。

女子テニス

●東海毎日ジュニア県予選・シングルス
22HR 鈴木日菜
県ベスト4 7月19日に行われた東海大会へ出場



和の心 贈ります

かしゅう 菓子勇本店



6代目店主 山田 佳幸 (高28回)

磐田市中泉坂上町 TEL・FAX 0538-32-3340

ISO9001/ISO14001認証取得



総合建設業

石川建設株式会社

取締役社長 石川 大造 (高12回)

磐田市今之浦5丁目1番地1

TEL.0538-36-0021(代)

http://www.ishikawa-cnst.co.jp

人・出会い・感動……そして発見



袋井駅前 TEL.(0538)43-1212

比那 純 (高15回)



鷹野 靖 (高15回)

〒438-0814 磐田市気子島961

TEL 0538-36-9261 FAX 0538-37-3572

地域に密着した医療を目指します

内科・小児科 木佐森医院

院長 木佐森正樹 (高25回)

〒438-0077 磐田市国府台55-1

TEL.0538-32-2555

往診応談 禁煙治療(保険可)

いわしんの「i」は、地域への「愛」でできています。
ひとりひとりの「アイ」が地域の力に。



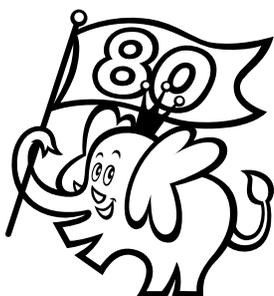
応援します あなたの笑顔

磐田信用金庫

〒438-0078 磐田市中泉一丁目2番地1

TEL.0538-32-5110(代表)

http://www.iwashin.co.jp/



制服のキンバラ

制服のキンバラは2014年11月に
皆様のおかげで創業80年を
迎えることができました。

代表取締役社長 金原 一平 (高16回)

静岡県磐田市見付1963-11
0538-35-5404 (本社)

給油から保険・車検・カーリース迄！
安全・経済走行が私達の願いです。



代表取締役社長 鈴木 裕司 (高19回卒)

本社 浜松市中区常盤町2-2 TEL053-454-7431

処方せん受付 **キヨシオピン** **ササノバ**

国府台薬局

磐田市国府台94-3 TEL 35-2175 FAX 33-0770

鈴木麻里奈(高38回)

名古屋・岐阜・津・浜松・静岡・沼津 全15校

学校法人 名古屋大原学園

学園長 杉山 孝男 (高15回)

本部 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-20-8

浜松校 〒430-0928 浜松市中区板屋町101-8 TEL.053-455-4408

レンタル 建設仮設材レンタル 人材 人材紹介・派遣サービス
請負 クサビ式足場請負 イベント 観覧席・祭ステージ



代表取締役会長 大庭 義信 (高20回)

本社 浜松市西区伊左地町2790-1 ☎(053)485-4126(代)

東遠営業所 掛川市大坂6369 ☎(0537)72-4129

人材事業部 ☎0120-452-310

http://www.your-site.co.jp



JX日鉱日石エネルギー・日新火災

新車・中古車販売

株式会社 金重

代表取締役 鈴木 厚 (高21回)

本社 〒438-0835 静岡県磐田市豊田西之島258

TEL<0538>32-5185 FAX<0538>32-5186

原田和義 税理士事務所

税理士 原田 和義 (高20回)

静岡県袋井市国本2493-7
TEL&FAX 0538-43-2462

冬 式典時の暖房に!

- ・パツグンの静音性
- ・省エネ性アップ
- ・安全設計

VAL6
SR パルシックス
エスアール



光・風・熱の技術で次の100年へ

静岡製機株式会社

夏 熱中症対策に!

水のかで
マイナス5°Cの涼風



CO₂削減商品
RKF series
505・405・303
気化式冷風機

RKFシリーズは小さな電力で熱中症対策できる商品です

産機企画課 〒437-1121 静岡県袋井市諸井1300
TEL.0538-23-2825 FAX. 0538-23-2890

さわやかな環境をクリエイト

BANNAN

磐南浄化槽株式会社

代表取締役社長
木戸 智弘 (高34回)

磐田市下岡田358-2 ☎36-0051 FAX 37-6622

株式会社 **遠州日石**

車検の窓口



検索

代表取締役社長 鈴木 裕司 (高19回)
車検の窓口責任者 渡辺 交司 (高46回)

浜松市東区和田町811(自動車街 宮竹交差点)
TEL.0120-976-544 営業時間: 9:00~20:00

ブランドリサイクル

PickUP

浜松宮竹店・浜松西伊場店・磐田店
掛川店・古着バザール宮竹店・藤枝高洲店

金・ブランド買取専門店

キンバリー

浜松高林店・浜松向宿店・藤枝インター店
静岡SBS通り店・静岡草薙店・静岡沓谷店

株式会社 **ピックアップジャパン** 本部 磐田市今之浦3-4-2
URL: <http://www.pickup-japan.com>

静岡県注文戸建建築実績

おかげさまで **13年連続No.1**

(2002年4月~2015年3月実績) ※当社調べ

セキスイハイム東海

〒430-7725 浜松市中区板屋町111-2(アクトタワー25階)

<http://www.816t.jp> ☎0120-000-816

ネジ 小物部品・締結部品・精密ネジ部品

ISO9001 認証取得
ISO14001

株式会社 マルイチ

代表取締役会長 安間 信義 (高7回)
代表取締役社長 安間 浩彦 (高33回)
取締役 松島 孝久 (高17回)

本社 〒430-0898 浜松市南区瓜内町540 TEL(053)441-4684(代) FAX(053)441-3452
ホームページ <http://www.ohha.net/maruichi/>
半田山工場 〒431-3125 浜松市東区半田山四丁目11-1 TEL(053)545-9735

TK 株式会社 タニコー



あなたの大切な人を救う緊急救助用

ラクラク39BAR RAKURAKU 39 BAR
Made in Japan

高33回 水谷 眞啓 高33回 青山 光男 (旧姓 金原)

磐田市南平松5番地 TEL 0538-67-1880(代) FAX 0538-67-1881
mizutanim@taniko.co.jp <http://www.taniko.co.jp>

資生堂・カネボウ化粧品・エステの店

おしゃれの店

みのりや 化粧品店

〒437-0027 袋井市高尾町13-1(東通り) TEL.(0538) 42-3410

袴田 政範 (高21回) 袴田 力造 (高25回)



中小企業の事業主様の「人」に関する経営アドバイザー
たていし社会保険労務士事務所

社会保険労務士 立石 泰広 (高27回)

〒437-1104 静岡県袋井市新堀121番地
TEL. 0538-86-3725 FAX. 0538-86-3728
<http://www.tateishi-sr.jp/>

TKC コンピュータ会計

山田会計事務所

税理士 山田 敏康 (高24回)

〒437-1203 静岡県磐田市福田453-8 TEL(0538)55-2115 FAX(0538)55-3484

長尾 仁 税理士事務所

税理士 長尾 仁 (高20回)

〒438-0086 磐田市見付3719-1
TEL.0538-35-9221 FAX.0538-32-8735

会計報告

平成27年度磐田南高校同窓会会計予算

収入 平成27年4月1日～28年3月31日 (単位：円)

科目	金額	備考
同窓会入会金	3,924,000	平成27年3月卒業生327名×12,000円
預金利息・配当金	35,000	
寄付金	200,000	卒業40周年寄付金(高27回)
雑収入	200,000	同窓会報広告代等
前年度繰越金	699,305	
合計	5,058,305	

支出 (単位：円)

科目	金額	備考
会務費	1,610,000	
会議費	250,000	役員会、評議員会等会議費
総会・慰霊祭費等	400,000	同窓会総会、慰霊祭費用等
支部総会・年次運営費等	650,000	支部総会助成、祝儀、旅費等
慶弔費	200,000	転退職餞別、慶弔費等
事務費	100,000	通信費、事務費等
事務局費	10,000	人件費、交通費
事業費	2,960,000	
卒業記念品代	210,000	校章入り印鑑
会報発行費	2,200,000	同窓会報編集・印刷・郵送費等
教育振興費	150,000	東海大会等出場選手激励金
諸費	400,000	ホームページ運営費
予備費	488,305	
予備費	488,305	
合計	5,058,305	

平成26年度磐田南高校同窓会会計決算

収入 平成26年4月1日～27年3月31日 (単位：円)

科目	金額	備考
同窓会入会金	3,972,000	平成26年3月卒業生331名
預金利息・配当金	34,435	
寄付金	262,250	卒業40周年寄付金(高26回)等
雑収入	251,722	同窓会報広告代等
前年度繰越金	77,256	
合計	4,597,663	

備考：平成27年3月卒業生同窓会入会金 3,924,000円(12,000円×327名)は2月16日に入金されていますが、平成27年度分収入とさせていただきます。

支出 (単位：円)

科目	金額	備考
会務費	1,383,072	
会議費	308,300	役員会、評議員会等会議費
総会・慰霊祭費等	293,770	同窓会総会、記念メダル代、慰霊祭費等
支部総会・年次運営費等	603,100	支部総会助成、祝儀、旅費等
慶弔費	105,640	転退職餞別、慶弔費等
事務費	70,262	通信費、事務費等
事務局費	2,000	人件費、交通費
事業費	2,454,236	
卒業記念品代	203,980	校章入り印鑑
会報発行費	2,135,256	同窓会報編集・印刷・郵送費等
教育振興費	115,000	東海大会等出場選手激励金
諸費	0	ホームページ運営費
予備費	61,050	
予備費	61,050	マウンテンビュー高校歓迎会
合計	3,898,358	
次年度繰越金	699,305	

●別途積立金会計		
1.諸事業用予備費(磐田信用金庫)	1,587,240	4.定期預金(磐田信用金庫) 10,000,000
2.終身会費等の積立金(磐田信用金庫)	3,653,103	5.定期預金(静岡銀行) 10,087,561
3.名簿会計(郵貯銀行)	6,322,320	6.利付国債(静岡銀行) 10,000,000
		7.利付国債償還金・利息(静岡銀行) 15,712,423
		8.磐田信用金庫への出資金 1,000,000
		合計 ¥58,362,647

平成27年度会務報告

- 4 / 7 母校入学式 保護者オリエンテーション
- 4 / 27 校内幹事会
- 5 / 1 会計監査
- 5 / 8 役員会・役員と校内幹事との懇親会
- 6 / 12 役員会
- 6 / 20 評議員会 はぐま会館
卒業50周年記念事業(高校18回) 母校に資金援助(20万円)
- 7 / 17 役員会
- 8 / 15 総会前日打合せ (役員、当番年次、校内幹事)
- 8 / 16 慰霊祭(高37回担当)
総会(高46回担当) 磐田グランドホテル
卒業40周年事業(高27回) 同窓会に資金援助20万円
- 10 / 10 同窓会だより37号発行
- 11 / 6 役員会、総会当番引継ぎ会(高46、47回)
- 2 / 5 役員会
- 2月中旬 評議員懇親会(2年毎)
- 2 / 29 高校第68回同窓会入会式
- 3 / 1 高校第68回卒業式

平成27年度校内幹事役割分担

- 総務・役員会 / 永田 淳 鈴木文基 大沢健一 佐藤正明 鈴木敦士 青木和彦
- 庶務 / 青島玲子 小粥美穂 村井雅子 村松芳郎 藤井元喜
- 会計 / 青木和彦 深田雅一
- 名簿 / 永田 淳
- 慶弔 / 永田 淳 柴田里沙
- はぐま会館 / 鈴木敦士 鈴木文基 永田 淳
- 同窓会だより / 鈴木文基 青島玲子 村井雅子 小粥美穂 柴田里沙
- ホームページ / 鈴木文基 永田 淳 匂坂真也

猛暑の続く8月16日(日)午前中には、37回生による慰霊祭が厳かに執り行われました。昨年9月から本年7月まで逝去された同窓生の慰霊の会に御遺族を含め、1000名を超える同窓生が集まってくれました。



午後には46回生による第89回同窓会総会が磐田グランドホテルにおいて開催されました。今年度の総会は何と云っても磐南

事務局より報告

★平成27年度各種当番年次★

- 卒業10周年 高校56回生(新年次役員選出)
- 卒業20周年 高校46回生(総会当番)
- 卒業30周年 高校37回生(慰霊祭当番)
- 卒業40周年 高校27回生(同窓会に資金援助)
- 卒業50周年 高校18回生(南高校に資金援助・同窓会より銅メダル贈呈)
- 卒業60周年 高校8回生(同窓会より銀メダル贈呈)
- 卒業70周年 見中19回生(同窓会より金メダル贈呈)

今年度は少しでも多くの方に座って欲談していただくという年次当番の配慮で、周りに多くの椅子が用意され、より多くの同窓生が話に花を咲かせることが出来たのではないかと思います。

最後にありますが、当番年次の皆様のご尽力に感謝申し上げて事務局からの報告と致します。

野球部の快進撃が話題に上りました。多くの同窓生が球場に駆けつけ、校歌を歌う幸せを味わうことが出来ました。その他にも水球部の総体優勝チームとの攻防や陸上部女子の西部大会の活躍、テニス部女子新人戦県3位、地学部の高文祭での最優秀賞受賞やビジュアル部の12年連続出場など現役生の目覚ましい活躍があげられます。

また懇親会では金メダル10名(88歳)、銀メダル30名(78歳)、銅メダル38名(68歳)の方が表彰され、多くの皆さんのお元気な様子と学年の結束の強さに感銘を受けました。

アトラクションでは総会当番年次でピアノの金澤亜希子さんが馴染みのある名曲や校歌などを演奏して下さり、磐田市歌の紹介合唱などで大いに盛り上がりました。

編集委員

発行に際してご協力頂きました多くの同窓生の皆様を始め、勉学・部活にお忙しい中、原稿をお寄せいただいた南高在校生の方々に編集委員一同重ねて感謝を申し上げます。

- 伊藤 英明(高15回)
- 仲川 勝彦(高16回)
- 鈴木 裕司(高19回)
- 原田 康代(高20回)
- 谷口 智子(高21回)
- 浅羽 浩(高22回)
- 鈴木 一雄(高24回)
- 鈴木 文基(高27回)

編集室より

「高校野球100年の年に南高が県大会ベスト4の快挙」は、「創立100周年の年までに甲子園出場」も夢ではないかもしれませぬ。母校在校生の活躍振り、同窓会会員にとっては大きな喜びであり、編集委員も一段と編集に熱がこもりました。

第37号同窓会だよりの編集委員は4名が新人ということで大変戸惑いもありましたが、多くの皆様方のご協力のお陰で何とかまとめることができ、皆様方のお手元にお届けすることができました。

新人も多いということ、思い切って変えた一面内容及びカラー化は、在校生の快挙に負けない歴史に残る同窓会だよりになったでしょうか。